



発行所 日刊木材新聞社
〒135-0023 東京都江東区
平野3-2-6木場パークビル3階
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
https://jfpj.co.jp/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2019
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布
は、著作権の侵害にあたり違法です。

木と共に
新時代
木材建材ワイワリ
Japan Lumber Reports
電子版

ドルフィンコート、販売量月12万枚に

双日建材

大手ゼネコン、公共施設での需要増目指す

双日建材(東京都、稲田隆社長)は、針葉樹塗装型桢合板「ドルフィンコート」の拡販に力を入れている。建築や土木工事での採用件数も増え、10月15日には公式ホームページをリニューアルし、製造工程や施工事例といった内容を拡充。環境配慮型商品としての市場での認知度のさらなる向上を図っていく。

ドルフィンコートは、された同名の針葉樹型し、同年7月から本格双日(同、藤本昌義社 桢塗装会社が製造して現在月間12万枚は納材筋が60〜70%、(同、井上篤博社)が担っている。2017年5月に操業を開始販売しており、昨年より30%、木建ルートなどが10%弱。この2年間で累計販売量は250万枚を突破した。発売当初は輸入型桢合板の継ぎ足しなど補助的な場面で使われることが多かったが、最近ではすべての型桢工事でドルフィンコートを使った段階でのマンションの事例もある。

また、橋梁工事のよう土木工事でも使われているほか、高速道路の補修工事では、製品色の緑が周囲との景観に調和するとして、工事現場を囲うための壁に用いられた。

変わったところは、工場内の腰板や床といった事例も出てきた。塗装面が緑色でよく目立つうえ、フロークリフトなどで破損させた際に簡単に取り替えられることから採用されたという。

同社の合板事業室は「発売当初は針葉樹塗装型桢合板に抵抗を示す納材業者や大工も少なくなかった。しかし、環境配慮型商品への関心の高まりに加え、近年の輸入南洋材合板の価格乱高下により、需要家の間でも危機感が生じていることで、将来を見据えて活用する業者が出てきている」と話す。

今後は大手ゼネコンの物件や公共施設での需要拡大を進め、月間15万枚の販売体制の確立を目指していく。